

発電コスト検証ワーキンググループ（第1回）へのコメント

国立環境研究所 増井利彦

2024年7月23日

発電コスト検証ワーキンググループの第1回会合に出席予定でしたが、残念ながら会合に間に合いませんでしたので、本ワーキングでの議論について書面にて意見を述べさせていただきます。

第1回ワーキングの YouTube も拝見させていただき、議論の方向性や進め方につきましては同意いたします。

その上で、以下のような点に留意して、議論を進めていただきたいと思います。

- ・ 前回までのワーキンググループと同様に、透明性の高い議論を行うことで、信頼性のある情報を提供できると思います。
- ・ 今回の議論の参考にするために、前回までのコストの見通しについての検証も必要と考えます。技術進歩（設備費）の見通しだけでなく、維持管理費や燃料費の見通しなどが実績と比較してどの程度合致していたのか、合致していないのであればその原因は何なのかを評価することで、今回の議論に対して様々な知見が得られると思います（過去の成功や失敗が将来に対してそのまま当てはまるわけではありませんが、評価を適切に行うことで検討過程の信頼性は向上すると考えます）。
- ・ 統合費用の考えや試算は重要と認識していますが、前提によって結果は大きく変化しますので、前提とあわせて議論することが重要と考えます。特に、基本政策分科会での議論に資する結果を提供するには、基本政策分科会においても前提についての議論をしていただき、それを共有して議論することが大切と考えています。
- ・ 脱炭素社会の実現に向けた取組の実施や GX の開始、更には脱炭素の前倒しの要請、広域連系系統のマスタープランの作成など、前提となる国内外の社会情勢が前回までの状況と大きく異なっています。こうした点に注意した議論（新しい技術に関する見通しを含めて）が必要と考えます。

以上です。